

③資料作成・公開 Area14

- 1) 美術関係図書
- 2) 伝統芸能関係図書
- 3) 保存修復関係図書
- 4) 売立目録
- 5) 展覧会カタログ
- 6) 和雑誌
- 7) 写真原板
- 8) 美術家・美術関係者資料

- 9) 画廊資料
- 10) 美術関係文献
- 11) 『保存科学』 所載文献
- 12) 伝統芸能関係三雑誌所載文献
- 13) 『美術研究』 総目次
- 14) 近現代美術展覧会開催情報
- 15) 伝統楽器情報

5. 図書受入数

和漢書797件、洋書99件、展覧会図録・報告書等1,986件、雑誌1,817件（受入総数4,699件）

37種の目録所在情報

6. 資料閲覧室の利用状況

公開日総数140日、利用者年間合計1,220人

研究組織

○津田徹英、田中淳、山梨絵美子、二神葉子、塩谷純、綿田稔、小林達朗、江村知子、皿井舞、中村節子、橘川英規、井上さやか、中村明子、城野誠治、鳥光美佳子（以上、企画情報部）

無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化（③無03-11-1/5）

目 的

無形文化遺産部では、旧芸能部時代から、文献資料のほかに、音声・画像資料を積極的に収集してきた。これらの記録は極めて貴重であるが、記録メディアの進展に伴って、より好環境のもとに保存してゆく必要がある。このため無形文化遺産部では、画像・音声・映像資料の媒体転換を進めてきたが、将来的には、デジタル化された各種資料の集積によって、デジタル・アーカイブの開設を目指している。

成 果

昨年度までに受入れ手続きが完了した資料の内、経年変化に伴う音質劣化が懸念されるオープンテープのデジタル化を昨年度に引き続き実施した。カセットテープに関しても、将来のデジタル化を視野に、収録内容の確認を含めた整理を行った。所蔵SPレコードの内、特殊な再生装置が必要な初期音盤の一部について、内容確認および媒体変換を行った。

研究組織

○宮田繁幸、高桑いづみ、飯島満、今石みぎわ、綿貫潤、星野厚子（以上、無形文化遺産部）